

兵庫 県協
兵庫 保医協
西宮 芦屋
支部 ニュース

No. 280
2009-11-25

発行
兵庫 県保医協
西宮 芦屋 支部
西宮市石列町十八ー八
大森内科医院内
連絡先 兵庫 県保医協
電話 〇七八 (三九三) 一八〇ー

第76回評議員会

「阪神・淡路大震災 15年の集い」にご協力を

保険医協会は11月15日、協会会議室で第76回評議員会を開催、評議員43人、理事19人ら、会員72人が参加した。西宮・芦屋支部からは支部長の大森公一先生が発言した。発言の内容を紹介する。

西宮・芦屋支部では、阪神・淡路大震災から15年の節目を迎える来年の1月16日に、5年前の集いに引き続き「阪神・淡路大震災15年の集い」を開催いたします。

この集いは、一九九五年の阪神・淡路大震災を振り返るとともに、被災者のその後の生活・健康や、災害に対する生活の備え、災害時の医療機関の取り組みと役割について、市民と医療関係者の交流を図ることを目的としています。



評議員会で発言する大森先生

当日は13時より20時まで、西宮市立勤労会館の3つの会場を利用して、様々な企画を予定しております。

「講演・パネルディスカッション」では、日本福祉大学名誉教授の金持伸子先生、関西学院大学総合政策学部教授の室崎益輝先生、兵庫災害医療センター顧問の鶴飼卓先生をお招きし、被災者の生活と健康や災害時の医療などのテーマで講演・討論していただきます。

また、「ボランティア・医療関係者の集い」では、東京都中野区医師会の中村洋一先生の講演、世界各地での災害とその復興の取り組みについての交流、ボランティア・市民・協会会員の交流会のほか、ソプラノ歌手の長谷川真弓さんによるコンサートも行います。

この他にも、劉揚さんによる二胡コンサート、災害・復興の記録展示、市民のための救急処置・心肺蘇生(AED)実習コーナー、健康相談コーナーなど、様々な企画を開催いたします。

西宮・芦屋支部が企画致しましたが、協会全体が復興に取り組んだあの震災から15年の節目となる集いということで、協会との共

世話人会だより

西宮・芦屋支部は10月23日(金)にフレンテ西宮で世話人会を開催した。出席は8人。

【協議事項】

- ① 第14回医療過誤訴訟セミナー (11・14)
- ② 第22回在宅医療研究会 (11・21)
- ③ 英語で診療#24 (12・4)
- ④ 第23回漢方研究会 (薬科部共催) (12・12)
- ⑤ 阪神・淡路大震災15年のつどい (1・16)
- ⑥ 診療報酬改定研究会
- ⑦ ホームページ作成勉強会
- ⑧ 病診連携、勤務医と開業医の懇談会

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

兵庫県保険医協会・協会西宮芦屋支部

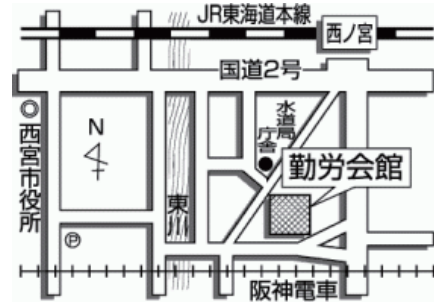
阪神・淡路大震災 15年の集い

【日時】 1月16日(土) 午後1時～

【場所】 西宮市立勤労会館 西宮市松原町2-37

(JR西宮駅南へ徒歩10分)
TEL/0798-34-1662

入場無料



- 健康相談コーナー(無料) 13:00～13:50 第7会議室
 - 救急処置・心肺蘇生(AED)実習コーナー 13:00～13:50 第8会議室
 - 災害・復興の記録展示 13:00～19:00 第8会議室
 - ◆追悼の歌 13:50～14:00 大ホール
＜アヴェマリア＞くはなれていても友だちだよ
ソプラノ 長谷川 真弓 さん ピアノ 榊原 契保 さん
 - 講演・パネルディスカッション 14:00～15:50 大ホール
 - ①「大震災被災者の生活と健康」
日本福祉大学名誉教授 金持伸子 先生
 - ②「生活を基礎にした減災の考え方」
関西学院大学総合政策学部教授 室崎益輝 先生
 - ③「災害時の医療 -避けられる死をなくするために-」
兵庫県災害医療センター顧問 鶴飼 卓 先生
 - ◆二胡演奏 16:00～16:30 大ホール
二胡演奏者 劉 揚 さん
 - ボランティア・医療関係者の集い 16:40～19:00 第8会議室
 - ① 講演「災害時に医療機関の果たす役割～東京都中野区医師会防災マニュアル～」 東京都中野区医師会 中村洋一 先生
 - ② 世界各地での災害とその復興の取り組み
 - ③ 交流会・コンサート
＜西宮芦屋支部緊急対策本部＞ボランティア・市民・協会会員
- ※医師・歯科医師の先生やスタッフの方もぜひ多数ご参加ください。

第14回医療過誤訴訟セミナー

おさまらない怒りを 真摯に受け止め

11月14日、兵庫県学校厚生会館会議室で、講師に寺島道子弁護士（寺島道子法律事務所）、アドバイザーに鶴飼万貴子弁護士（米田泰邦法律事務所）を迎え、「患者・家族が怒るとき」「これですんだ」のか、「こんな目にあった」のか」をテーマに、第14回医療過誤訴訟セミナーを開催。医師・歯科医師・薬剤師・医療スタッフら41人が参加した。司会を務められた半田伸夫先生（西宮市・半田医院）の感想文を掲載する。



患者と医師の意識のずれについて
具体例を交えて講演する寺島道子弁護士

第14回の本会は医療訴訟で数多くの患者側弁護にたずさわっている寺島道子弁護士をお招きして開催された。
「患者・家族が怒るとき」と題した講演には、先生のモチーフである医療側の「これですんだ」との思いが、実は患者側では「こんな目にあった」という思いになること、そこには意識のずれがあることをまず指摘された。

次に、原告側は「真実を知りたい、反省して同じ失敗を繰り返してほしくない、とにかく腹が立つこのままではすませたくない」の3つの思いがある。これを主に金銭賠償という形で争うことの問題や、過失の有無、損害の判定、因果関係の立証を患者側がしなければならぬ難しさを述べた。
また裁判官、裁判所、弁護士にも数多くの限界がある。それでも訴えるには、根源に「おさまらない怒り」が存在する。医療者側はそのことを真摯に受け止める必要がある。

コメンテーターの鶴飼弁護士との質疑応答も法則界の常識を垣間見ることができ、

非核平和祈念のつどい

核廃絶運動の広がりに確信

西芦支部相談役の幸原久先生が実行委員長を務める「芦屋非核平和祈念のつどい」が10月24日、芦屋市の上宮川文化センターで開催され、市民ら約80人が参加した。

この企画は芦屋市の非核平和都市宣言を記念し毎年開催されているもので、今年も紙芝居の上映と記念講演が行われた。



実行委員長として
開会のあいさつをする幸原先生

オープニングでは、佛敎大学黒岩ゼミが08年に製作した紙芝居「おぼあちゃんの人形」を上映。被爆者の塗炭の苦しみを語り継ぐとともに、「アメリカが憎いとか、アメリカの人たちが嫌いではなく、大好きだった人形が焼け死んでしまうような：戦争が嫌いな！」という被爆者の願いを表現し、感銘を与える内容となった。

記念講演は、関西学院大学法学部教授の富田宏治先生を講師に「核兵器廃絶は可能か？」と題して開催。原水爆禁止世界大会文書起草委員長のバトンを引き継ぎ、徹夜続きで起草に取り組んだ苦労話も交えながら、核がテロリストの手に渡りかねない恐怖や、「核抑止力論は時代遅れ」という意識が運動と世論の力で広まっていることなどを、たいへん分かりやすく解説された。

参加者からは「いまこそ核兵器全面禁止条約を話し合う絶好のチャンス。まさにYES WE CANだ」と思う」などの感想が寄せられた。

第23回漢方研究会（薬科部共催）

かぜ症候群の漢方治療

日 時：12月12日（土）午後6時～8時
会 場：兵庫県農業会館 101・102号会議室
JR・阪神元町駅より南へ徒歩10分 078-333-5954（代）
講 師：栃木県野木町・野木病院副院長 加藤 士郎 先生
司 会：広川 恵一 先生（広川内科クリニック）
長光 由紀 先生（ウイング調剤薬局）

英語で診療 Medical English #24

【日 時】 12月4日（金）午後2時～3時半
【会 場】 西宮医療会館1階会議室
【テーマ】 「子宮頸部ガン検診と乳がん検診」
【講 師】 Com Language School
Mr Robert Conroy
【司 会】 ビューハイッククリニック院長
坂尾 福光 先生
【アドバイザー】 林田クリニック院長
林田 英隆 先生

大いに参考となった。事件の真相解明方法として裁判以外の方法はないのか、説明義務違反は拡大解釈されすぎではないか、カルテ開示はすべてしななければならないのか、などの活発な質問が出て、両弁護士がそれぞれの立場で答え、実に興味深いものがあつた。
最後に、非常識なモンスターペイシエントには患者側に立つとしても無理があることも分かり、小心者の筆者は安堵して会を後にした。

【西宮市・半田医院 半田伸夫】